

# 地域おこし協力隊“奔走中”

●移住定住、空き家担当  
永田 賢一郎です。

移住定住、空き家担当の永田です。新しい年が始まりましたね。今年もどうぞよろしくお願いいたします。空き家担当では昨年9月末から、町の旧教職員住宅を舞台にDIY改修ワークショップを行ってきました。このワークショップは全国的に増加していく空き家の活用方法や、建物の仕組みを知ること、空き家を「課題」から「可能性」へと捉え直してもらうことで、より多くの人が空き家を身近に扱えるようにするために企画したプロジェクトになります。また実際に立科町にある物件を対象としてDIYを行うことで、立科町へ興味を持ってもらう機会創出の意図も込めております。

ワークショップは「解体」「断熱」「左官」「外構」「インテリア」の5つのメニュー、合計8回に渡って行われ、どの回も応募開始から一週間と経たずに満席となり、合計82名の方が全国から参加してくださいました。立科町の方をはじめ、移住を検討されている方、他の自治体の職員の方、首都圏から来た方など様々な方が参加くださり、ワークショップ当日は初めて会ったにも関わらず、あっという間に皆さん仲良くなっていました。「建物がこういう風に出てくるなんて知らなかった」「自分も空き家を購入検討してるから改修の参考になった」といった声も聞かれ、中には「立科に初めて来たけどすぐ気に入ってしまいました」「ここが完成したらぜひ使ってみたいです」といった嬉しいお言葉も頂きました。

空き家の活用や移住定住に関しては、すぐに効果が出るものではなく、いかに多くの方が様々な形で町に関われるかが肝になります。「関係人口」という言葉を聞いたことがある方もいらっしゃると思いますが、地元でなくても、観光じゃなくても町に関われるような、そんな開かれた環境がどれくらいあるかが、これからの地域には必要です。「あのとき行った町、良かったな」と思い出してくれた人が、数年後町に関わってくれることもあります。(実際僕もそうでした。)

地域の未来に向けて種まきをするように、色々な企画を作っていけたらと思いますので今年もどうぞよろしくお願いいたします。

